

令和6年度(2024年度) 第3回 函館市地域学校協働活動連絡会議 会議録

日 時	令和6年12月20日（金） 10:00～12:00
場 所	函館市役所8階大会議室
参加者	【地域学校協働活動推進委員】 工藤委員，梅田委員，京谷委員，酒井委員，齊藤委員，三好委員，吉村委員，干山委員，梶原委員，阿久津委員，郷六委員，照井委員，田中（真）委員，神田委員，田中（慎）委員（計15名） 【地域包括ケア推進センター職員】 齊藤第一層生活支援コーディネーター（西堀病院） 小杉第一層生活支援コーディネーター（西堀病院） 四戸センター長（地域包括支援センターあさひ） 福島センター長（地域包括支援センターこん中央） 澁谷社会福祉士（地域包括支援センターよろこび） 若杉保健師（地域包括支援センター亀田） 吉田主任介護支援専門員（地域包括支援センターゆのかわ） 丸谷社会福祉士（地域包括支援センターときとう） 川村センター長（地域包括支援センター西堀） 関社会福祉士（地域包括支援センター神山） 足立社会福祉士（地域包括支援センター社協） 松野センター長（地域包括支援センターたかおか）（計12名）
事務局	小棚木学校再編・地域連携課長，田口主査，石川主任主事，吉田学校教育指導監（4名）
傍 聴	なし

1 開 会

（事務局）

本日はご多用の中，お集まりいただきありがとうございます。定刻となりましたので，ただいまから，令和6年度(2024年度)第3回函館市地域学校協働活動連絡会議を開会いたします。

本会議につきましては，函館市情報公開条例第26条の規定に基づき原則公開となります。本日の議事等につきましては，非公開となる内容がないと考えられますので，全ての会議が公開となりますがよろしいでしょうか。

（異議なし）

会議終了後には、発言要旨を取りまとめた会議録を作成し、公表することとなっておりますので、ご承知おきください。会議録につきましては、後日、発言された委員全員に確認していただく予定であります。

本日の配付資料について、確認させていただきます。

(配付資料について確認)

なお、本日の意見交流につきまして、第1回会議で当方から協議したい内容を募集したところ、京谷地域コーディネーターから協議のご提案をいただいたことから、京谷地域コーディネーターファシリテートのもと、地域包括支援センター職員の方々とともにグループワークをすることとなりましたので、どうぞ、よろしくお願いいたします。

ここからの司会・進行は工藤座長にお願いします。

2 行政説明

(工藤座長)

それでは、次第に基づき進めたいと思います。

まずは、次第2の行政説明につきまして、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

(※ 資料に沿って説明)

3 今後の方向性等に係る検討

(工藤座長)

続いて、次第3の今後の方向性等に係る検討に入りたいと思います。ここからは、京谷地域コーディネーターにファシリテートをお願いし、協議を行っていきます。

(京谷委員)

グループワーク全体の司会を務めます京谷です。まずはじめに、生活支援コーディネーターについて、第1層と第2層の立場からそれぞれ説明し、その後グループワークに入ります。今お座りの席は地域包括支援センターのエリアと学校のエリアが重なる構成となっています。協議内容は、一つ目は、自己紹介も含めて、それぞれの活動についての情報共有、二つ目は、各エリアの課題と対策を話し合います。その後、各グループで話し合われた内容を自席に残った第2層生活支援コーディネーターが説明し、その他の方は他のグループに移り、他のグループの話し合いの内容について意見交換してください。

(齊藤第一層生活支援コーディネーター)

(※ 資料に沿って説明)

(京谷委員)

(※ 資料に沿って説明)

～意見交流（グループワーク）～

(意見交流の内容の一部)

- ・函館にある企業を子どもたちに知ってもらうきっかけとして協力できる取り組みをする。
- ・子どもたちのためになる活動を通じて、町会、PTA、企業、地域をつなぐ。
- ・地域の温度差に合わせた取り組みをする。
- ・学校の考えや職員の異動によって活動が左右されやすい。
- ・どの組織でも次の世代の担い手が不足していたり、世代交代ができていない。
- ・CS の活動への地域住民の参加率が低い。
- ・熱心に声をかけ続けることで、活動に楽しんで協力してくれる人を見つける。
- ・町会や保護者等、CS を理解してもらうために粘り強く説明していく必要がある。
- ・学校の困りごとについてあまり学校運営協議会内で協議されていない。
- ・学校と地域の活動の趣旨がずれることがある。
- ・地域のキーパーソンによって活動の幅が変わる。
- ・地域や PTA と連携するためには、勇気を出してお互いが声をかけることが大切だ。
- ・CS と地域包括支援センターがうまく連携できており、今後もその関係性を継続していきたい。

(京谷委員)

時間となりましたので、第1層生活支援コーディネーターの齊藤から総括させていただきます。

(齊藤第一層生活支援コーディネーター)

皆様、お疲れ様でした。最初に小棚木課長から「自分の考え・想いを伝える」、「相手の考え・想いを聴く」、「対話をする」という説明がありましたので、今回の意見交換会は良い機会となったことと思います。

話し合いの中では、人手不足や組織のあり方、学校の体制も含めての運用上の課題、町会・PTA との連携、ひいては地域や行政まで広げた課題も出されていました。

これからも小棚木課長がお話ししていた「恩送り」「恩返し」というらせんの鎖を作っていければいいなと思います。

(京谷委員)

それでは進行を、工藤座長にお返しいたします。

(工藤座長)

ありがとうございました。それでは私の方から総括ということでお話しします。今回は新しい取り組みとして地域包括支援センターの皆さんにご参加いただき、普段の地域コーディネーターの活動の具体的な悩みや実践について意見交流できたのではないかと思います。

最初に小棚木課長から学校運営協議会のあり方について説明がありましたが、説明を聞きながら、私も青柳ネットの学校運営協議会の一員でもありますので、今までの学校運営協議会の持ち方についてさらに工夫してやっていかなければいけないと感じました。青柳ネットで熟議を年に1回やっているのですが、熟議終了後に地域コーディネーターの私が出た意見をまとめ、青柳ネット4校の校長研修会でできるもの、できないもの、これから考えていかないといけないものと分類し、今年はどれを中心にやっていこうかというような形で具体的な計画を推進しているところです。

また、今後の方向性にかかる検討ということで、今回の話し合いを通して、地域コーディネーターと地域包括支援センターがますます連携を深めていくことが必要だと思いました。私も地域コーディネーターになってから、地域の町会の状況がよく見えないところもありましたが、地域包括支援センターさんの方では地域・町会との連携が活発ですので、そういうところを意見交換しながら、地域の状況にあった活動を進めていけばいいのではないかと思います。青柳ネットでは、今年度、ボランティア活動ということで、中学生が地域の活動をお手伝いする場を提供しています。そして、参加してくれた子どもたちには、ボランティア証明書を出しています。子どもたちも一生懸命やってくれて、自己有用感を味わい地域に役立つことを実感して帰っていきます。先ほどのお話にもありました「恩送り」という、「今までお世話になったので今度は自分が恩返しをしよう」という気持ちを子どもたちが持ってくればいいなと思いながら活動を進めています。

この地域学校協働活動連絡会議ですが、地域コーディネーター同士が具体的な意見交換ができる大切な場だと思いますので、今後も継続してやっていければと思います。ありがとうございました。

4 閉会

(事務局)

工藤座長，ありがとうございました。本日の第3回の会議につきましては，ご出席の委員の皆様の協力により，滞りなく終了することができました。感謝申し上げます。

また、先月 26 日の青森市での連絡会議にご参加いただきました皆様、ありがとうございました。青森市との交流については、次回開催の連絡会議にて、詳細を共有させていただく予定ですが、青森市教育委員会から発表者 2 名に対し、お礼のお手紙が届いておりましたので、ここで代読させていただきます。

(礼文読み上げ)

以上をもちまして、令和 6 年度(2024 年度)第 3 回函館市地域学校協働活動連絡会議を終了いたします。本日はありがとうございました。